

つどいの広場研修事業「子育てひろば研修セミナー」 <京都開催>

『テーマ：地域にあった「ひろば」の形をみつけよう！』

「今、京都において必要な研修を、いろいろな方たちと一緒に考えながら作り上げたい」という願いで、舞鶴市・福知山市・亀岡市・京都市・宇治市・精華町の市町村の NPO と行政の方。そして、京都府と他「子育てひろば」を視野に入れて活動をしておられる NPO の方に協力を依頼し、実行委員会を結成しました。

立場や地域性も違う中、思いを語り合い、協力しあいながらの運営ができましたこと、心から感謝しております。

おかげさまで、参加者も申込締め切り日の時点ですでに予定人数を大幅に超え、当日は199名（行政56名/NPO 任意団体100名・他団体や企業25名・その他18名）の参加がありました。北は東京・南は広島からの参加もあり、また、京都府内でも北から南までの参加がありました。御参加くださった皆様、ありがとうございました。

- 開催日：平成 19 年 10 月 4 日(木)10:00～17:00
- 会場：ひと・まち交流館京都(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1)
- 主催／財団法人こども未来財団
- 共催／NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 協力／「子育てひろば研修セミナー京都開催」実行委員会・京都きつずプロジェクト
NPO 法人きょうと NPO センター・
- 後援／厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・京都府・京都市
京都府社会福祉協議会・京都市社会福祉協議会



20名の実行委員で企画を練っていきました。



<プログラム趣旨>

京都でも少しずつ「子育てひろば」の取り組みが広まっています。どこに暮らしていても気軽に足を運べる「ひろば」がもっともって増えてほしい。そのために、京都セミナーでは、行政も NPO も地域住民もいっしょになって、それぞれの地域の状況に合った「ひろば」の形を探り当てたいと思います。参加した人々が、地域や立場をこえて「出会い」「つながり」「学びあう」機会になることを願っています。



当日・受付スタッフとしてたくさんの方が応援に来てくださいました。



ロビーに情報コーナーを設置しました。あっという間にチラシがなくなっていました。

【総合司会】松本彰子 やましろ子育てネットワーク

初めての大会にどきどき…台本をしっかり作ってがんばりました。



主催者を代表して こども未来財団 高橋吉則さん

つどいの広場事業は今年度から保育所で実施している地域子育て支援センターと統合され再スタートを切ることになっています。ひろば型の利点をとりセンター型、児童館型など他の地域子育て支援事業と連携をはかりながら、気軽に立ち寄り頼りになる存在として今日のセミナーを生かしていただきたい。



実行委員を代表して 京都府こども未来室 室長 川村しげるさん

NPO京都市ずっプロジェクトのみなさんと実行委員会を立ち上げました。NPOの皆さんだけでなく行政も入ってこのセミナーの開催に準備を進めてきました。府内広い中で実行委員会を進めるのは大変でしたが、京都で子育てしていてよかったなと思っているような地域にしていきたいと思うので皆さんもご協力お願いします。

プログラム1 基調報告 厚生労働省少子化対策企画室 赤塚孝之さん



パワーポイントを使って様々なデータを元に、今の日本の状況を説明くださいました。感想にも、「データが良くまとまっている」「国もいろいろ真剣に考えていることを感じた」と、いう感想がありました。京都においては、厚生労働省のかたから、直接市民が話を聞く機会も少なく、新鮮であったようです。

プログラム2 パネルディスカッション 「ひろば」は親子のスタートライン」

二部構成 50分武田信子さんの講演 その後パネルディスカッション



最初に、武田さんが今まで「ひろば」をイメージしてきたそのモデルとなる“カナダ”“熊本”のある「ひろば」を写真で紹介されました。そこは、「家庭」のような場であり、また、「地域と行き来できる場」であり、「何もしないで疲れたら寝ることも出来るような空間」だったということ。「ひろばは親子のスタートラインであり、子育て支援のスタートラインであって、そこを整えていくということと同時に、そこを離れて、ひろばから力をつけて外で遊んでくる、ひろばが閑散としてくるまちをつくるのがスタッフの役割かもしれません」

「ひろばに関わるひとたちがひろばのことだけではなく、社会全体に目を向けていかなければ、ひろばだけを見ていたらひろばの形が違った方向に動いてしまうと思います」「日本は、経済効果を重視してこれだけの国を作ってきた。結婚したくない、子どもを産みたくない、育てたくない。生物は環境がわるくなると子どもを生まなくなる。この原則によくあてはまっている。」「誰のための支援か、何のための支援かがおきざりにされているのでは？」という言葉も印象的でした。

パネルディスカッション



【コーディネーター】 深尾昌峰さん

NPO 法人きょうとNPO センター 事務局長

- 今、子育て支援は蛸壺化していないかな？
 - いろいろな事業が困り込み型になっていないか？そこだけでなにかを完結させなければならないというプレッシャーがあるのでは？
 - 「ひろば」がスタートラインなら、ゴールはなにでしょう？
- などの課題の定義が、つぎつぎにパネラーに投げかけられました。



武田信子さん 武蔵大学人文学部教授

迫きよみさん 京都きつずプロジェクト 代表

武田さんの発言のひとつコマ…。尊敬している精神科のドクターがいて、治療をしない精神科病棟であろうというのが彼の目標です。そこで生活しているだけでみんなが治っていくような場。なにも特別なことはしていない、今つらい状況にいたんだけど、そこにいたらふっとほぐれた、子どもが笑ったから私も笑った、という環境を、スタッフが手をかけたことがわからないようにできるかということが一番大変。外側をつくっていく。そしてなにもしない。これが専門性、日常性だと思います。

迫さんの発言のひとつコマ…。いろんな人がいろんなことで子育て支援をしている市町村単位でこのまちの子どもたちをどうしていきたいかということを熱く語り合い、わたしの現場ではここが得意、親が思う一歩踏み出したいときの応援はここ、わたしたちは家庭訪問を考えるわ、というための指針づくり。ひろばのマニュアルよりも、どういう人をそだてたいかたということを今こそ語りたい。子育て支援者どうしが協力してゆく時期ではないかと思います。

プログラム3 分科会

<第1分科会>「ひろば」の立ち上げを考えよう ～思いが形になる方法を見つけよう～

- 【コーディネーター】 岡本聡子さん NPO法人ふらっとスペース金剛 代表理事
- 【事例報告】 青木和人さん 宇治市子ども福祉課子育て企画係 係長
- 【事例報告】 会田千鶴さん NPO法人そよかぜ子育てサポート「滋場」運営委員長
- 【事例報告】 足立喜代美さん おひさまひろば



実際に「ひろば」の立ち上げた人、立ち上げている途中の人、行政の担当者がそれぞれの立場から、「ひろば」についての思いを事例発表として出し、その後、参加者を交えてグループトークをしました。

多く議論がされたのは、「お金」「スタッフの確保」「行政とのつながり」「いろいろな視点でのひろばの場所を考えてみては？」など、様々な議論がされ、最後に岡本さんより、様々な地域の広場のカタチなどが紹介されました。

<第2分科会>「ひろば」に求められる専門性を考えよう～子育て支援者の質を高める方法をみつけよう～

【コーディネーター】 武田信子さん 武蔵大学人文学部教授

【事例報告】 藤本明美さん 京都子育てネットワーク 代表 【事例報告】 朝倉久美さん 亀岡子育てネットワーク



「ひろばに参加したけど、話し相手がなく、孤立した」「ひろばの参加者からスタッフになった」という事例を聞いた後、コンピテンシーのリストを使ってグループワークを行った。コンピテンシーのリストとは、自分の強みも弱みも知り、振り返ることで、自分や周囲の人の行動で気づきを得る。知らなかったことを身につける。無意識にしていたことを意識的に変えるためのヒントのために作成されたものです。そのリストをもとに、話し合いました。最後に武田さんより「振り返りをぜひ続けてほしい。大事なことは、話し合える、愚痴を言い合える仲間をどう確保するのか。完璧な支援者はいない。孤立した支援者にならないようにしましょう。という言葉でしめくられました。

<第3分科会>「ひろば」における協働の形を考えよう～市民の思いと施策のより良い関係をめざそう～

【コーディネーター】 深尾昌峰さん NPO 法人きょうと NPO センター 事務局長 【助言者】 厚生労働省少子化対策企画室

【事例報告】 宇野ゆかりさん 大手筋地域子育てステーション ぱおぱおの家

【事例報告】 田中美賀子さん 亀岡子育てネットワーク 代表



まず、深尾さんから「協働」についての説明があり、その後の事例では、「ひろばをしたいが、財政的なめどが立たず踏み切れない」「商店街と協力し、住民主体で運営している」という事例に対し厚生労働省から、「行政には、市民と話し合ってお互いを知り、市民とのコーディネーターとしての役割や、時には自身がプレーヤーの役割を担うことが求められている。」また、会場からは「行政に対しては要望型でなく提案型が望ましい。」「市民の善意に頼るのではなく、国が全面的に財政支援すべきでは？」等活発な意見の交換がありました。

<第4分科会>「ひろば」の継続を考えよう～多様な運営形態からヒントをみつけよう～

【コーディネーター】 原京子さん NPO 法人こども NPO 事務局長 【事例報告】 岩前良幸さん 精華町民生部児童育成課 課長

【事例報告】 朱まり子さん NPO 法人山科醍醐こどものひろば 理事長

【事例報告】 吉田秀子さん NPO 法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長



事例発表の後、グループワークを行い、「ボランティアはそのとき限りのお手伝いなので、当日休むこともあり、役割を振り当てられない。継続するには仕事にするほうが事業として確実かもしれない。」「継続に必要なものとして、起業の人は『資金』、NPO の人は『人材』、行政の人は「行政との繋がり」「交付金等の受け方」などの意見が出ました。人材、資源、資金、情報、ネットワークに分けてあるものないものを書き出してみると、行政にないものを NPO は持っている、NPO にないものを行政が持っていた。だったら、継続するには、一緒にやればいいのかとは大いに盛り上がりました。

<第5分科会>いろいろな形の「ひろば」を考えよう～わたしのまちでもできるカタチをみつけよう～

【コーディネーター】 安孫子浩子さん NPO 法人 Chacha-House 代表理事

【事例報告】 篠田絵里さん 総社市保健福祉部こども課 保健師

【事例報告】 地主明広さん NPO 法人そら 代表

【事例報告】 石井智子さん NPO 法人高槻子育て支援ネットワーク ティーパー 理事



南北に長く都市部から山村部までいろいろな地域がある京都において、いろいろな場所でいろいろな形の「ひろば」が運営を参考にしたいという思いでこのテーマをとり入れました。事例の3例だけでも、すべてが違い、参加者からは、「いろいろな事例が細かく紹介され参考になった」「熱心に取り組む若い人がたくさんいて、うれしかった」という意見と共に、グループワーク的に自分たちもまたいろいろ意見を伝えたいという感想もありました。

プログラム4 全体会 各分科会内容報告およびまとめ

【司会進行】 並川はるみさん NPO 法人舞鶴市女性センターネットワークの会 副理事長



各分科会の様子を、約10分ご報告いただきました。内容の様子はそちらをご覧ください。



懇親会

17:30 より懇親会を行いました。たくさんの方が残ってくださいました。(アルコールなしのお茶とジュースで乾杯です)



お疲れ様でした・・・出会いをこれからのつながりに続きますように・・・